

# 定 例 監 査 結 果 報 告 書

- 1 監査対象部署 交流推進部 スポーツ育成課
- 2 監査実施日 令和6年1月31日
- 3 監査実施場所 監査委員室
- 4 監査の範囲 令和4年度の財務に関する事務及び事業の管理全般
- 5 監査の執行者 監査委員 西村 一伸  
監査委員 表 靖二

## 6 監査の実施手続

あらかじめ必要と認めた事項を記した監査資料、関係する管理資料、申請書類及び執行手続書類並びに台帳等の提出を求め、事務局職員により、その内容の閲覧、帳簿突合、質問等の予備監査を行った。

また、監査当日は、交流推進部長ほか関係職員の同席の下、所属長から監査資料に基づき事務事業の執行状況等を聴取するとともに、質疑を交わした。

## 7 監査の着眼点

財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理が、関係法令に基づき適正かつ効率的、合理的に行われているかを主眼として、監査を実施した。

監査の主な着眼点は、次のとおりである。

- (1) 収入及び支出事務は、関係法令等に基づき適正に行われているか。
- (2) 契約事務は、関係法令等に基づき適正に行われているか。
- (3) 財産の管理は、適正に行われているか。
- (4) 公金の取り扱いは、適正に行われているか。
- (5) 前回の監査で指摘した事項は、適正に改善されているか。

## 8 監査の結果

予算執行状況、財産の管理状況、事務事業の管理状況、前回指摘事項の項目については、おおむね良好に執行がなされているものと認められた。事務処理上にわたる注意事項については、監査の過程において当事者に指導したので本書には省略した。

## 9 監査の結果に添える意見

現在、スポーツは教育環境における体育という枠組みから、人々が多様な観点を持って楽しむものへ、また、交流人口の拡大を通じて地域振興に寄与するものへと変化している。

この変化を踏まえ、スポーツ育成課ではトップアスリートの育成、生涯スポーツの推進、部活動の地域への移行支援を行うとともに、観光交流等による地域経済の活性化を目指し、積極的に事業を展開しており、今後の事業指針となる新たな「小松市スポーツ推進計画」を策定中である。

一方、令和2年度で10年間の計画期間を終了した前回の計画では、4つの目標値が設定され、点検・評価することとなっていたが、1つの目標値の実績がホームページで公表されるのみとなっていた。

このことを踏まえ、新計画策定にあたっては、前回計画の検証を行い、さらに最新のデータ等を用いて新たな数値目標を設定するほか、令和5年11月に新たに策定された「小松市2040年ビジョン」を反映した具体的な事業やそれに伴う施設の更新計画も示されたい。

また、最新の市の事業方針や取り組みをわかりやすく伝え、計画の評価・検証を行い、進捗状況を定期的に報告することで、市民のスポーツやまちづくりへの理解を深め、市民の健康増進や地方創生への更なる貢献、市の発展に繋がるよう努められたい。